

# 入賞作品紹介

④

小学生の部親子賞 優秀賞

読む知る学ぶ E!新聞

## 色んな角度から新聞を読みたい

福島市 遠藤 萌花さん  
福島二小5年

学校の自主学習で新聞記事を使って調べ学習をしたり、短い感想を書いたりすることがあります。今年の夏、テレビや新聞で見た「保育園建設中止」のニュースについて感じたことがあったので、それを作文にする機会がありました。私の意見だけでなく、周りの人がそのニュースを聞いてどう思ったかを知りたい、幼稚園や保育園の先生、保育園の近くに

住んでいる方たちにアンケートをとることにしました。地域の理解がえられて幼稚園や保育園が存在しているという意見がほとんどでしたが、あるお母さんはニュースの一つの面だけをもらえるのではなく、周りに住む人の事情などニュースの背後にどんなことがあるのかを考えてみるといういかにも教えてくれました。そのことを聞いて新聞の読み取り方を変えていくと努力しました。今までは、良くないニュー

スを見ると悲しいとか、くやしなどの感情ばかりだったけれど、「どうしてそういう事件が起きてしまったのかなあ」とか、「どうやってこの事件を解決できるのかなあ」と、深い所まで考えるようになりました。今回作文を書くにあたってアンケートをとったインタビューをしたことから勉強になったことでもあります。私たちが毎日目にしている新聞記事は記者さんがしっかり取材して分かりやすく作った物ですが、私もインタビューを作文にまとめたので、記者さんにとっては大変なだろうなあと思います。そのことを

考えると、ただ新聞を何も考えずに読むのではなく、「どんなことを伝えたいのかなあ」ということを思いながら読んでいきたいです。色んな角度から新聞を読めるようにしたいなあ。

## 私のお気に入り場所

母 遠藤 陽子さん

読み聞かせボランティアをしている私は週に二、三回本を探しに図書館に出る。その帰りに立ち寄る場所は学習センターに併設されている「新聞コーナー」。自宅で購読している新聞以外の全国紙、地方紙と五種類の新聞に目を通す。あの新聞ではあんな風

に書かれていたけど、こちらの新聞では別の視点で書かれているとか、この地方版は地域の行事を細かく取り上げていて好きだなあとか、ザッと読みかしたくない私でも気づくことがたくさんある。コンクールで入賞した自分の子やクラスメートの名前をひょっこり発見して、ニコニコしながらべ

に。メモを書き終え、「あんな若いのに偉いな」。そう言って新聞を渡してくれた。確かにこのコーナーでは比較的若い部類に入るから、めずらしいのかも。ほめられて少し嬉しくなった。もし、あのおじいちゃんにまた会えたら、新聞を譲ってくれたお礼が言えるといいな。

今は新聞を読む人が随分減っているそうだ。自分の子に「新聞読みなさい」と言っている手前、私はお手本を示さないといけない。じっくり時間をかけて読むのは難しいけれど、世代を超えた新聞読み仲間のいる「私のお気に入り場所」へ通い続けようと思う。